

山行報告 栃の木沢、神崎川(愛知川)

【山城】奥三河、鈴鹿

【コース】①栃の木沢遡行～登山道下降

②赤坂谷遡行～ツメカリ谷下降～神崎川本流下降

【山行形態】沢登り

【日時】2016年8月①20日、②21日

【天気】①晴れのち曇り ②曇り時々霧雨のち晴れ

【メンバー】CL 平野直(記)、SL 上茂、萱野、平野良、小原

【タイム】①駐車場 7:30－入渓点 7:40－大滝 9:30－登山道 10:30－駐車場 12:00

②駐車場 6:30－登山道－入渓点 7:10 遡行開始 7:30－赤坂谷終了点 9:10 休憩 15分－乗越－ツメカリ谷下降点 10:30 休憩 15分－神崎川合流点 11:50 休憩 10分－堰堤 13:30－登山道 14:00－駐車場 14:30

【報告】

関西の名溪、愛知川に行きたーい！と言い続けてはや 3 年。今年メンバーとタイミングが揃って、ちば山久々の関西遠征となった。

金曜夜 21:30 に千葉を出発、まずは土曜日の予定地奥三河に移動する。新東名を快適にドライブし、1:50 遠州森町 P A 着。一般道からの駐車場にテントを張り、プチ宴会をして就寝。翌朝 5:00 起床、ゆっくり支度をして 6:30 頃出発。

① 栃ノ木沢は日本屈指のクライミングエリア、鳳来を抱える明神山に突き上げる沢だ。一昨年の集中山行の時に計画したが、天気が悪くて計画が流れたコースである。記録を読むと、結構濡れる沢らしいので真夏のこの時期にリベンジに来てみた。

三遠南信道路の鳳来峡 I C を降りると、緑滴る山並みから奇岩岩峰がニョキニョキとそそり立ち、ああ鳳来に来たなあと懐かしくなる。宇連ダムをぐるっと回って入渓する沢に行くのだが、水量が少ない。貯水率 41% との事で、こちらも水不足か？沢もヌメヌメの予感。

いつもはクライミングに行く時に使う駐車場に車を止め、支度をする。他に車はいない。駐車場からしばし歩いた場所から簡単に入渓すると、そこはクリームオレンジ色のナメ天国。上流を見ても下流を見てもどこまでも続く流紋岩の滑床にサラサラと清流が流れ、きらきら輝いている。

みんな歓声をあげて歩き出すが、気を付けなければいけない、一見真っ平に見える滑床には所々水流に挟まれた穴や溝の罠がある。また、水流中や乾いた岩は沢靴のフリクションが良く効くが、中途半端に濡れている場所は結構すべる。いつもより滑る気がするのは気のせいだろうか？

滑床を数百メートル進むと最初のナメ滝が現れる。なんて美しいんでしょ！しかも簡単に登れて楽しい！ナメ床、ナメ滝、時々ゴーロといった溪相がしばらく続くが、段々ゴーロが大きく黒くなってきて、滝が立ってくる。さすがクライミングエリアにある沢だけあって、小さい滝でも結構登攀的だ。みんなであーでもないこーでもないと、それぞれのラインを探してトライする。ちょっとボルダーチックな沢だ。もちろん難し過ぎる

(私達にとって、笑) 滝には明瞭な巻道が付いている。Kさんは3週間前の沢で捻挫して、まだ治療中だ。今回の遠征は滅多にないチャンスなので、サポーターで足首をガンガンに固定して参加したが、無理はしないでお助け紐をつかったり、巻いたりした。途中ヌメる滝を登っていたOさんが「ギヤー！」と叫びながらすべり落ちて滝壺に浸かった。何事かと思ったら、掴もうと思ったホールドから木の根が出ていると思ったら、蛇だったそうだ。見ると可愛いヤマカガシの子供。今年は本当に蛇が多い気がする。そうこうして進む内に12m滝に出会う。記録では登っているパーティもいるが、結構時間がかかっている。岩を触るとありえない位ヌメっていてノーサンキューな感じだ。散々ばら遊んだ私達はさっさと左岸を大きく高巻く事にした。薄い踏み跡を途中1ピッチロープを出してトラバースすると、上に向かって踏み跡とピンクテープが続いている。地図を見ると、ほんの少し進むと下山用の登山道と出合うらしい。沢もお腹いっぱいになってきたし、今日の車移動距離も長いのでここから下山開始する事にした。一般道は明瞭で歩き易いが、うっかり岩に乗るとツルツと滑る。やはり今日のコンディションは結露系のじっとり日だったようだ。

湿度100%の下山道をシャワークライミングの様になりながら駐車場に戻る。

【インターミッション】

ベタベタになった体を近くの温泉「梅の湯」で流し、さっさと高速に乗り、新東名長篠設楽原SAで合戦ラーメンや味噌カツ、えびフライなどの東海ソウルフードを堪能してから一路滋賀県へ向かう。

三重県側から鈴鹿山脈を越え、滋賀県側に入ったのは16時頃か。どうやら天気が不安定らしく、山地に入ると所々道が濡れている。途中で通り雨にも会ったので、今夜と明日の天気が心配になる。テントも雨の心配のない場所に張りたい。

取りあえず、まずは下見だ。この辺りの岩盤は花崗岩で構成されており、白い川床を青い水が流れ、素晴らしい景観だ。近隣の市街地からも近い為キャンプ場も多く、広い河原はBBQや川遊びをする人達で賑わっている。明日の登山口や駐車場を確認してから今夜の宿候補を探しながら近江の町に向かって夕飯、買出しに走る。

山を下りて下界に向かうとだんだん晴れ間が広がってくる。せっかくなので琵琶湖まで足を延ばして観光地めぐりをした。しかし琵琶湖は波も砂浜もあって本当に海のようなのだ。今回3人のメンバーが初滋賀県だったが、湖の広さにびっくり。みんなで思わず夕日に輝く湖水に向かって明日の安全を祈ったのであった。

近江名物を食すべく探しているうち、日も暮れて、また雨が降ってきた。時間もなくなってきたので「びっくりドンキー」で食事をして「マックスバリュ」で明日の買出しをするという残念なパターン。道の駅奥永源寺溪流の里の軒下に宿を借り、せめてもの琵琶湖名物「ふな寿司」をつまみにしながら明日の検討会をして、就寝した。

②今日は長い一日になりそうな為、朝4時に起床。薄雲の向こうに居待月が輝き、前日夜にパラついてた雨の影響はなさそうだ。お湯を沸し、朝ごはんを食べながら身支度を整える。6時過ぎに駐車場着、昨日はあんなに賑やかだったのに、まだ人っ子一

人いない。ここから入渓地点までは約 40 分のアスファルト歩きだ。フェルトソール沢靴のKさんとH氏はアプローチシューズ。ラバーソール沢靴のUさんと私はそのまま。最近メキメキと力を付けているOさんは貫禄の、すり減ったフェルト靴でのアプローチスタート。コースタイム通りに、記録で確認していた赤坂谷への下降点に到着。踏み跡は明瞭でフィックスロープまで付いていて、この谷の人気ぶりが伺える。

ところで私達沢ノボラーはこの谷を「愛知川（えちがわ）」と一般的に呼ぶが、正しくは愛知川支流の「神崎川（かんだきがわ）」と更にその支流群だ。本当の愛知川は神崎川を合わせ流れ下り、琵琶湖を潤す一級河川である。神崎川は沢登りだけでなく、キャニオニング、フィッシング、キャンプなどのアクティビティーが大人気の西日本を代表する名渓だ。

「愛知川」は、どんどん水の中に入ってジャブジャブ水と戯れる、明るいお遊び系の沢だ。但し問題が一つあって、水が冷たいのである。記録を読むと「冷たい」「震える」

「ウェットスーツ」「ライフジャケット」などのキーワードが続出する。当然私達もライジャケ2着、ウェット1着、ラッシュガード1着、ファイントラックの最新下着や上着多数を持ち込んで臨んだ。結果：全然大丈夫でした（笑）。渇水のせいか、異常気象のせいか、上越や東北の冷たい水で鍛えられているせいか、愛知川の水は易しく暖かく私達を迎えてくれたのでした。

さて、まずは赤坂谷の遡行から始まる。出合は巨大なゴーロで形成され、一つ一つを乗越すのに苦労する。そんなゴーロをしばらく進むと釜を持った3m滝のお出ました。これを越えるには釜に入らなければ取付けない。意を決してジャブンと飛び込むと、意外に適温。火照った身体に調度良い水温だ。みんなでキャーキャー言いながら泳いで滝に取付き、簡単に越える。

次に現れるのが最初の核心、7m滝だ。これは水量もあり、ちょっとヒョングって直登はムリ。そして右壁に、おいでおいでとフィックス（結びコブ付き）がある。みんな当たり前の様にここを登るのだが、実は核心はこの後、お遊びグループは一度滝上に登ってから釜へ向かってジャンプするのだ！私達も滝上から釜を覗き込んだが、激しい水流が深緑の釜に向かってドウドウと落ちている。後にそんな出来事は忘れてしまうほど飛び込むのだが、朝一のおばさん、おじさんグループは全員一致でここをパスしたのだった。

その後も釜を持った滝や美しいナメ滝が次々と現れる。水にさえ入れれば、難しい所はなく、ちょうど良い楽しさだ。仙香谷を左に分けて10、20、10mと続く斜瀑を過ぎると間もなくツメカリ谷への乗越地点となる。赤坂谷はこの後、溪相をがらりと変えてミニ赤木沢と例えられる滑床天国となるらしい。次回は赤坂谷を詰めて鈴鹿の名峰釈迦ヶ岳に登るのも良いかもしれない。

さて、赤坂谷からツメカリ谷への乗越だが、純粋に地図を読むと結構難しい。小さな尾根や谷が複雑に入り組んだ地形だからだ。そして多分みんな迷っているらしく、踏み跡に至る所にあるからだ。ここは勉強と、平野アニキに先導してもらうが、案の定ぐるぐる彷徨い始める。諦めてもう一度最初の地点に戻り、みんなで踏み跡&コンパス直進作戦で、今度はほぼドンピシャの地点に出た。

ツメカリ谷は赤坂谷より水量が少なく、緑色の水苔が目立つ。なぜか深みの岩に鮮やかな緑色のコケが付いていて、バスクリンの様な色合いを放っている。そしてうっかり歩いているとスべる。この沢も5、6mの、飛び込むのにうってつけの滝が連続しており、最早テンションMAXの我々はここをドボンとプカリで突破していったのだ。途中、本日最初に出会った別パーティが、ツメカリ谷を遡行して来るのに遭遇した。彼らはこのまま登って稜線に抜けるらしい。登りと下りが交差する光景だった。ところで我々は、お昼までに神崎川出合に届かなければ本流下降をパスして林道で帰ろうかと相談していたのだが、ばんばん滝に飛び込んだおかげで、昼前に出合到着。そしてそこには青く輝く天然プールが待っていた。

そしてそこにはテーマパークかと思うほど、たくさんのグループがいたのだった。我々が休憩している間にも、十数人のパーティが2つ、楽しそうにプールを遡上していった。どうやら今流行りのきゃにおにんぐつあーとか言う、婦女子も楽しめるあうとどあくていびていらしい。そんなチャラチャラ集団がきゃーきゃー突破する谷など無視！ではなくちゃっかり楽しみにしている我々だった（笑）

本流は今までの支流より明らかに水量が多い、そして冷たかった。だが我慢できないほどではない。相変わらず空身のキャピキャピした集団がガイドに連れられて、行ったり来たりしている沢筋を、ダサいザックに汚い恰好をした我々が割って入る。というか、みなさん良い方々で、私達ににこやかに道を譲ってくれたのだった（早く行ってくれという意味もあったかもしれない）。

そんなフツウの人々をも魅了する本流を、たっぷり泳いで飛び込んで楽しんで、ようやく終了点である発電所の堰堤に到着した。堰堤下の踏み跡から林道にあがり、30分で灼熱の駐車場に戻った後は、後ろ髪ひかれながら帰路につく。

次回は神崎川本流遡行もしたいし、今回行かなかった白滝谷にも行ってみたいね。今回メンバーに入っていながら、ご家族の体調不良で急遽不参加となった鈴木玲ちゃんともリベンジに来ないとね！

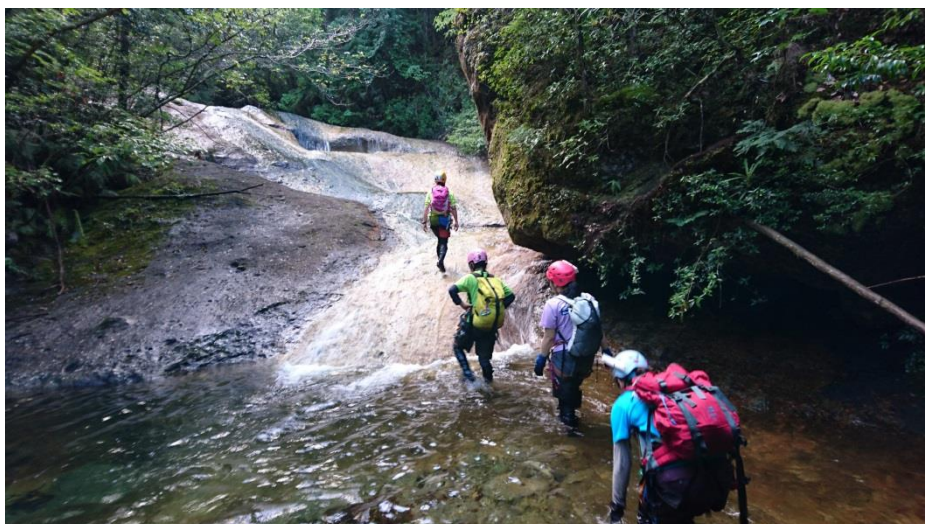
そんな話に花を咲かせながら山を越え、三重県菰野の某有名パティシエが経営する温泉に入って、散々途中でお土産を物色して夜半に帰葉したのだった。



栃の木沢入溪



朝露の中の散歩



こんな滑床が延々続きます



登って寝て



栃の木沢の12m大滝



マムシの仲良しカップル



赤坂谷入溪



泳いで跨いで突破



楽しくて変になってます



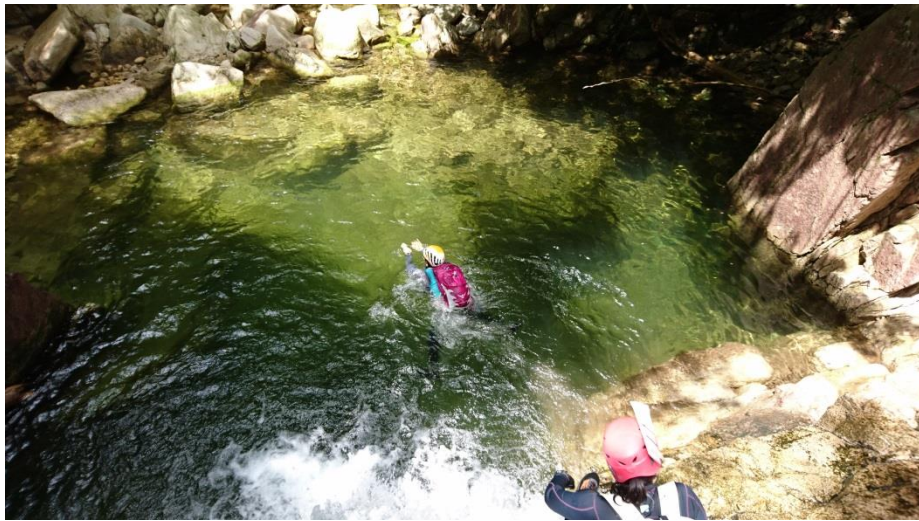
修行僧



のんびり温泉気分



下りの滝はジャンプ&スイム



またまたジャンプ&スイム



気合を入れてジャンプ



澄んだ水



神崎川本流でプカリ



神崎川の天然プール